

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475001432	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	医療法人 啓和会		
事業所名	グループホーム渡田		
所在地	(〒210-0837) 川崎市川崎区渡田2-7-1		
サービス種別 定員等	□ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成23年9月25日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

第一に、母体である医療法人との連携を積極的に推進している。昼夜問わず、入居者様の急変時に対する24時間訪問看護体制を実施。又、定期的な個人への訪問診療、外来での内視鏡検査等で入居者様のわずかな変化を見逃さないよう、日々医療・介護間で連携を図る事に努めている。その中でターミナルケアを行ったこともある。更に、同じ母体であるデイサービス・ケアとも連携しており、週1回の健康運動指導士によるリハビリ体操や、訪問マッサージ師による訪問マッサージを行っている。

第二に、地域交流を活発に行っている。運営推進委員会を開催し、町内会・民生委員・地域包括と連携をとり、地域との関わりを深めている。また、加入している町内会主催の夏祭りに参加したり、近隣の小学校からの教師・児童の訪問受け入れや、運動会・学校行事等に招待してもらう等、交流を深めている。

最後に、ご家族との信頼関係強化にも努めている。毎年実施している敬老会・クリスマス会にて家族会を開き、要望・質問等を直接伺う機会を設けている。又、入居者様の毎月の様子を月報という形で担当者が文章作成し、毎月の個人の金銭出納長の収支状況とともに郵送にてお伝えしている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月11日	評価機関 評価決定日	平成23年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

当事業所はJR川崎駅から海側へバスで8分、徒歩3分の場所にある。多摩川の下流に広がる市街地に近く、平地が続き道路が整備された住宅街にある。建物は2階建てで、リビングにいる利用者の様子がキッチンから見渡せ、浴室やトイレ等の設備も整っている。医療法人啓和会グループに属し、開設後6年を経て事業所としての体制も整い、利用者がアットホームでいられることを大切にしたい運営がされている。

【終末期まで安心して暮らせる医療・介護体制の整ったホーム】

医療法人が運営主体であり、地域の医療機関や訪問看護との連携により、24時間いつでも緊急時には速やかな医療対応ができる。健康診断や毎月の往診のほか、随時の診療が可能である。利用者の意向を反映させた介護計画をもとにし、日常的な見守りの中で利用者のペースを大切にしたい介護が行われている。看取り支援も可能であり、利用者・家族の意向に基づき取り組んでいる。

【散歩や体操で心身を健やかに送る毎日】

天気の良い日には毎日近くの公園や神社、商店街へ散歩や買い物へ出かけている。歩行の困難な方は車いすで対応しており、全員で出かけることが多い。体操の指導員が毎週1回訪問し、2ユニット合同でリハビリ体操や声だし、指、口腔体操など高齢者向けの体操を音楽に合わせて行っている。各ユニットでは毎朝ケアワーカーによるラジオ体操やレクリエーションが実施され、健康的な生活を送るための基盤を整えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム渡田
ユニット名	さくら

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	「個人の尊厳」「日常生活の保持」「利用者の意向を尊重」「地域との連携」「開かれた施設づくり」等のホームの理念を玄関に貼付しており、毎月のフロア会議の話し合いにおいて、共有・実施に努めている。	理念は当該事業所が開設された平成18年に法人理事長、管理者等により策定した。職員に説明し、事業所内に掲示している。理念の具体的な実践については日常的に職員に伝え、周知を図っている。理念をもとにその人らしい生活を尊重する介護を心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭りへ参加している。また、ホームの生活習慣である、近隣の公園への散歩、又スーパー・商店への買物等を通して入居者様に日々、地域とのつながりを実感してもらえるよう努めている。	渡田2丁目町内会に2ユニットがそれぞれ加入している。祭りの際に神輿が来てくれたり、神社で行われる豆まきに参加するなど地域の行事を楽しんでいる。商店会や近隣の人とは買い物や散歩の際の声掛けなどを通じて日常的に交流がある。小学生が学習の一環として来訪し、介護の仕方の勉強をしたり、ボランティアが折り紙やハーモニカの演奏に来るなど、地域との交流は多様である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の教師・児童の訪問受け入れの際、施設職員が児童達の目の前で、入居者に対するケアを実践し、子供達に何か学んでもらえるよう、日々積み重ねている実践を活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催している。町内会長・民生委員・地域包括支援員と連携をとり、話し合いを行い、そこでの意見等を参考にサービス向上に活かしている。	「地域運営推進会議」が市職員、地域包括支援センターのケアマネジャー、町内会長、民生委員、家族、管理者が出席し、年4回開催されている。議題はホームのサービス概要、状況・活動報告で、意見交換を行っている。夜間に災害がおきた時や防災訓練について地域の協力をお願いしている。夏まつりに参加する際には「参加者が名札を付けてはどうか」という提案をもらった。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎市事業推進課等、わからないことが発生した場合、相談にのってもらったり、川崎市の質問コーナーにて相談している。	本年は当事業所の指定更新の年に当たり、7月に市担当課に事業報告を行っている。市の介護保険関係部署である事業推進課に痰の吸引指導やベッド費用負担等について相談している。また、地域包括支援センターが行った連絡協議会で近隣のグループホームと共に互いの外部評価の「利用者家族アンケート集計結果」を発表し合い、各ホームの特徴を話し合っている。	
---	---	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも誰でも目につくように、玄関に、「身体拘束廃止排除宣言」を貼付している。日々の申し送りや毎月のフロアミーティングでの話し合いや、身体拘束についての研修を設け、勉強する機会を作り、取り組みを強化している。	身体拘束の研修は法人本部が毎年開催し、受講した職員は内容を他スタッフに向けて伝達している。身体拘束をしないケアの実践について周知を図り、身体拘束排除宣言をしている。安全確保のためにセンサーマットを設置したり、ベッドの高低、畳で布団活用等工夫している。玄関や居室のカギは掛けられていないが、各ユニット入り口は、帰宅願望の強い方もおり、家族の同意のもとに施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を設け勉強する機会を作り取り組みを強化している。また、入居者の着脱時・入浴時等に発赤・痣などがあれば、記録・報告するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成年後見制度を利用している入居者が数名いる。そのため、入院手続きや毎月の費用等で、この制度の在り方を直接現場で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時ともに、ご家族と面談の上、漏れがないように、十分な説明を行っている。疑問点はその場で、出来る限り解決を図っている。その上で契約書への記入・捺印を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置したり、ご家族会やご家族の来訪時等に直接いただいたご意見・ご要望には、真摯に耳を傾け、速やかに対応している。	運営推進会議には毎回2～3家族が出席し、意見や要望を述べている。家族会は年2回開催され、約半数の家族が出席している。入居者の状況及び活動報告、意見交換、個人面談、家族同士の情報交換・交流を行っている。家族からの要望・相談に対応した例としては、金銭管理ができない方に対して後見人をつけるなどがある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや、毎日の申し送りにおいて、職員が積極的に発言できる機会を設けている。その中で貴重な意見は、全職員で共有するように心がけている。	月1回のミーティングやカンファレンス、申し送りは、職員が自由に発言できる場になっている。担当職員により入居者の状況についての課題や改善提案が行われ、具体策を話し合っている。職員の提案により夜間災害を想定した避難訓練を行った。人事異動の際は、新人職員の写真や趣味を事前に利用者に紹介している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や主任から個々の職員の評価や意見を把握し、就業環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規に入社した職員に対し、研修期間を定め、その期間はフロアの主任・副主任を中心に指導にあたっている。また、連携しているデイサービスや他のグループホーム等へ研修に行き、幅広い介護経験を積めるよう、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者が集まる講習会への参加を促したり、講習会の告知をしたりと、広く積極的に同業者とのネットワークづくりを提唱している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何よりご本人との話し合いを大切にしている。それまでの生活歴・身体状況・既往歴等の把握に努めている。その上でショートステイを利用いただいている。その結果、ご本人に安心して入居を検討していただけるように努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ショートステイの入居の前段階に施設の見学をすすめている。見学時における、質問・要望等に耳を傾け、ショートステイの記録を公開するなどして、開かれた施設づくりに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極められるよう、アセスメント、往診記録、ショートステイ記録、実際の印象等から総合的に判断するように努めている。その上で当施設外のネットワークを利用してサービス支援に対応することもある。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が長年培ってきた生活の知恵や昔の経験等を職員側に発信できる機会を作るようにしている。具体的には、共に家事を行ったり、回想法を用いたりしている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	物理的距離のある家族にご本人を日々身近に感じてもらえるよう、毎月本人の写真付きの月報を発行している。またご本人と共にイベントに参加していただいたり、家族会開催や年末年始の本人帰宅の奨励等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の以前住んでいた家の近所の友人が、時々訪ねてきたりと関係の継続を支援している。	入居者は近隣の方が多く、家族が頻繁に訪ねてくる。正月やお盆には自宅に帰る支援を行っている。友人や知人からの電話や手紙に対して、職員が返事を書くことを支援している。地域の顔見知りのシルバーハーモニカのボランティアグループが訪れ、演奏や交流をしている。入居時に関しては、ショートステイを利用しながらホームになじんでもらうなどして、段階を踏んだうえでの入居となっている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者の席を近くに配置したり、会話が成立しやすいよう工夫している。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了され、療養型病床に入院された方のところへ、職員がお見舞いにいたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人に担当者を充てている。定期的にアセスメントを行ってもらい、より深く、担当した入居者の意向等を把握してもらうよう、努めている。	職員1人が2名の入居者を担当し、各人の思いや意向の把握に努めている。職員は担当入居者のアセスメント、身体的変化や様子、意向の把握、毎月家族へ個別の便りを書く、下着など消耗品の補完、居室環境を整えるという役割を担い、その人らしい暮らしを続けるよう配慮している。思いを言葉にしづらい方には二者択一の選択を提示したり表情、行動から意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成以降も、ご家族来訪時に随時、生活歴・生活環境等を伺い、継続的な把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録記入や申し送り、また定期的かつ継続的な訪問診察体制により、日々の状況把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーの作成した計画と課題に、ご家族、職員の意見を反映して、入居者の変化に対応した介護計画を作成している。	毎月1回管理者、ケアマネジャー、利用者、担当職員等の参加によりカンファレンスが開かれている。医師の指示や助言、家族の意向、担当職員のアセスメント等を踏まえて入居者の状況について検討が行われ、介護計画に反映している。計画は定期的には年1回、それ以外にも心身状況の変化等必要に応じて随時作成・見直しが行われている。モニタリング及び評価は3か月に1度実施されている。	介護計画の見直しを6ヶ月に1回の割合で定期的に全員分実施することを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに記録ノートがあり、職員の観察による気づきや入居者の変化等を記載している。そのノートをもとに申し送りを行っている。また、ケアプランの見直しにも活用している。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、訪問マッサージ等のサービスを提供している。また、ご家族の状況に配慮し、介護保険の更新、後見人との面談等も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防士立会いによる避難訓練、災害講習、消火器の使用法の説明を受けている。また近隣の小学校の運動会の見学席に招待してもらったり、施設訪問を受け入れたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療法人のドクターの訪問診療を基本にしているが、かかりつけ医がいる場合は、連携をとりながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人の希望する医療機関で受診ができる。協力医の内科、精神科は、それぞれに月2回の往診がある。外科、皮膚科、歯科は必要や希望に応じて往診医の診察が受けられる。協力医以外を受診する場合は家族が対応し、受診結果は職員に報告してもらっている。家族が同行できないときは有料で職員が同行する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療でドクターと同行している看護職員に、申し送りや会議で共有した気づきや変化を受診時に報告、相談している。また緊急の場合には24時間、電話で看護職員に連絡が取れる体制になっており、活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当の看護職に施設での現状を報告している。また、寝たきりや認知症の進行を予防するため、ご家族の協力も得ながら、早期退院を心がけている。また、退院時のサマリーを職員が通読するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに向けた方針をまとめ、ご家族、医師、施設長、ケアマネジャーが話し合いの機会をもち、十分な説明を行い、ご家族の希望に出来るだけ沿うよう、看取りについての指針が定められている。また看取りの指針を入居の際ご家族に説明し、お渡ししている。	「重度化した場合における（看取り）に関する指針」及びマニュアルが策定されている。指針は入居時に本人・家族に説明し、同意を得ている。終末期には、医師の説明及び本人・家族の意思の確認を1週間ごとに行い、要望があれば看取り介護に入る。過去に1度看取りをした経験がある。ターミナルケアの研修はこれからの課題である。	
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応について、職員が実践力を身につけられるよう、研修の機会を設けている。また、必要な応急処置は行っている。		
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施し、記録に残している。また、地域の広域避難場所に避難する訓練も行っている。フロア内には、避難訓練の場所までの地図を貼用している。	毎月避難訓練を実施している。年2回、消防署職員から、夜間想定を含めた避難訓練及び消火器の扱い方の指導を受けている。近隣住民に訓練への出席依頼をしているが、参加までには至っていない。自動火災報知機や熱感知器、煙探知機等の防災設備が設置されている。食料や水、懐中電灯等の防災用品の備えがある。	防災訓練・避難訓練への近隣住民の参加を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア内に言葉遣いや気遣い、マナーに関するポスターを職員が目にしやすい場所に貼用している。また実際、人生の諸先輩方と接する気持ちで対応するよう、心がけている。	「電話対応・接遇」及び「倫理及び法令順守、プライバシー保護」に関する研修が法人本部で実施され、そのフィードバック研修・文書閲覧が行われている。申し送りやミーティングで、人格の尊重やプライバシーへの配慮について徹底するよう伝えている。「きれいな言葉づかいと笑顔はあなたをうつくしくする」など「介護職員のマナー＆気づかい」のポスターを職員休憩室に掲示している。個人情報に関わる書類は鍵のかかる戸棚に入れ、パソコンはパスワードを使用し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の想いを引き出せるよう、声かけの仕方に工夫をしている。食事・おやつメニューや、外出したい場所等に関するアンケートをとったりしている。また、個別や集団も意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護予防や共同生活を視野に入れながらも、一人一人のライフスタイルを尊重し、出来る限りご本人の希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する洋服を自分で選択してもらったり、化粧道具をお貸したりしている。また、床屋・美容院等は本人の希望に沿って行っている。地域の行きつけのお店に行ったりもしている。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食事やおやつのアンケートをとり、それを献立に反映したり、入居者の誕生日には、本人希望のメニューをだしている。記念日に特別メニューにしたりしている。また食材の買い出しに同行してもらったり、野菜切りや味見等、調理に参加してもらったりしている。	お膳を出す、お茶を出す、茶碗を洗う、もやしのひげ取りなど利用者が自分で役割を決めて楽しんで行っている。週6日は委託業者の献立・材料を利用し、残りの1日は誕生日等のイベントとして、利用者の好みに合わせた食事に行っている。好みについては和・洋の選択をしてもらったり、出前の日を設けたりして、各ユニットで工夫している。職員も一緒に食事を取り、和やかに楽しんでいた。	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、刻み・お粥・ミキサー食にしたり、食事の量も調整している。また、毎食の摂取量を記録ノートに記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、毎食後に行っている。また個々に応じて歯ブラシを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意を見逃さないよう、観察・声かけを意識している。	個々の入居者の排泄表があり、便や尿の排泄時間、回数、水分補給を記録し、排泄リズムを把握している。前誘導を行い、各人の身体機能に合わせて、おむつをリハビリパンツ、布パンツと段階を追って変える取り組みを行ったり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど自立に向けた支援を行っている。また、同性介護にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表を作成し、入居者が、水分不足にならないように促している。水やお茶などなかなか摂取されない方には、お茶をゼリー状にして出すなど工夫している。また便秘の日数を記録し、申し送りにて情報共有している。外出も積極的に行っている。また野菜を多めに摂取してもらうよう、メニューを工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回行っている。入浴当日のバイタルサインや、ご本人の希望を考慮し、気持ち良く入浴してもらえるよう努めている。また、女性入居者の羞恥心に配慮し、同性の介護職が対応したり工夫している。	入浴または清拭を週3回行っている。入浴時間は午前中から夕方まで本人の希望に合わせている。バイタルチェックを全員が朝夕2回行うなど、安全に配慮している。同性介助も可能である。入浴を好まない方へは家族からの言葉かけなど協力を頂いたり、入浴剤を使った湯など目先を変えた対応もしている。季節によりゆず湯を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、フロアでうたた寝している入居者がいたら、居室で少し休むように声かけや誘導したり、一人一人の体調に合わせて休息をとれるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬の目的・副作用・用法・用量は誰でもいつでもファイルで簡単にチェックすることができるようになっている。また、服薬の確認チェックリストを作成し、誤薬が起こらないよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書好きの方を本屋へ連れて行ったり、歌うことが好きな方に歌い出しを担当してもらったり、テレビ好きな方に出来るだけ好きな番組を観てもらえるよう配慮したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出前に全員に質問をし、外出を希望する方を中心に支援を行っている。また、普段行けないような場所の場合は、事前に職員が企画を立案し、安心・無事故で支援できるよう努めている。	天気が良い限り散歩は毎日行っている。利用者本人の希望に合わせて、近くの公園や神社、スーパーへの買い物、美容院や床屋へ行っている。歩行が困難な方は、車椅子を利用し、全員が参加している。車の利用が出来ないため、遠方へ出かけることは行われていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の扱い方を理解している方は個人でお財布・お金を所有している。購入したいものがある場合、職員が同行しご本人が自分で納得した買物ができるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は連絡が取れるよう支援している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には植物を配置している。玄関窓は小さく、不快な音や光が届くことはない。また、毎月入居者が作成した、ちぎり絵による作品が季節感を表すものになっている。更に、カレンダーが皆の目につくところに配置されている。	落ち着いた雰囲気玄関フロアから各ユニットまでバリアフリーとなっている。キッチンからリビングが見渡せ、利用者の状況が良くわかる。1階リビングにはボランティアの指導により利用者と職員が手作りした大きな文字の毎日カレンダーや明るいハロウィンの飾りがあり、季節のイメージを与えている。2階では入居者の作品である油絵や折り紙芸術、散歩やイベント時の利用者の明るい表情の写真が掛けられ、利用者間に話題を提供している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛け・3人掛けソファや玄関前のベンチ等、独りになれたり、気の合う入居者同士ですごせるよう、工夫している。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険性のない物であるならば、本人が居心地よく過ごせるようにするため、ご本人やご家族が使い慣れた家具や衣類、物品等、自由に持ち込んでいただいている。危険性が発生したものは、随時本人・ご家族に相談して臨機応変に対応している。	居室の入り口には、利用者の穏やかな写真が表札として掛けてある。冷暖房機と電球は事業所が設置し、それ以外は利用者の馴染みの物を持ち込むことが出来る。テレビ、DVD、洋服掛け、整理ダンス、テーブル、鏡台、仏壇等を持ち込み、各自自由に自分の部屋をレイアウトしている。俳句や油絵、誕生日の写真、花が飾られ、自分の好みの部屋となっている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも歩行でも可能なバリアフリー仕様になっている。玄関から階段・廊下・トイレ・フロア・浴室等に手すりを配置している。また、フロア・居室・トイレ・キッチン・洗面所・浴室等の段差は解消している。		

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475001432	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	医療法人 啓和会		
事業所名	グループホーム渡田		
所在地	(〒210-0837) 川崎市川崎区渡田2-7-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	2011/9/25	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

第一に、母体である医療法人との連携を積極的に推進している。昼夜問わず、入居者様急変時に対する24時間訪問看護体制を実施。又、定期的な個人への訪問診療、外来での内視鏡検査等で入居者様のわずかな変化を見逃さないよう、日々医療・介護間で連携を図る事に努めている。その中でターミナルケアを行ったこともある。更に、同じ母体であるデイサービス・ケアとも連携しており、週1階の健康運動指導士によるリハビリ体操や、訪問マッサージ師による訪問マッサージを行っている。

第二に、地域交流を活発に行っている。運営推進委員会を開催し、町内会・民生委員・地域包括と連携をとり、地域との関わりを深めている。また、加入している町内会主催の夏祭りに参加したり、近隣の小学校からの教師・児童の訪問受け入れや、運動階・学校行事等に招待してもらう等、交流を深めている。

最後に、ご家族との信頼関係強化にも努めている。毎年実施している敬老会・クリスマス会にて家族会を開き、要望・質問等を直接伺う機会を設けている。又、入居者様の毎月の様子を月報という形で担当者が文章作成し、毎月の個人の金銭出納長の収支状況とともに郵送にてお伝えしている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム渡田
ユニット名	すみれ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳」「日常生活の保持」「利用者の意向を尊重」「地域との連携」「開かれた施設づくり」等のホームの理念を玄関に貼付しており、毎月のフロア会議の話し合いにおいて、共有・実施に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭りへ参加している。また、ホームの生活習慣である、近隣の公園への散歩、又スーパー・商店への買物等を通して入居者様に日々、地域とのつながりを実感してもらえるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の教師・児童の訪問受け入れの際、施設職員が児童達の目の前で、入居者に対するケアを実践し、子供達に何か学んでもらえるよう、日々積み重ねている実践を活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催している。町内会長・民生委員・地域包括支援員と連携を取り、話し合いを行い、そこでの意見等を参考にサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎市事業推進課等、わからないことが発生した場合、相談にのってもらったり、川崎市の質問コーナーにて相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも誰でも目につくように、玄関に、「身体拘束廃止排除宣言」を貼付している。日々の申し送りや毎月のフロアミーティングでの話し合いや、身体拘束についての研修を設け、勉強する機会を作り、取り組み強化している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を設け勉強する機会を作り取り組みを強化している。また、入居者の着脱時・入浴時等に発赤・痣などがあれば、記録・報告するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成人後見制度を利用している入居者が数名いる。そのため、入院手続きや毎月の費用等で、この制度の在り方を直接現場で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時ともに、ご家族と面談の上、漏れがないように、十分な説明を行っている。疑問点はその場で、出来る限り解決を図っている。その上で契約書への記入・捺印を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置したり、ご家族会やご家族の来訪時等に直接いただいたご意見・御要望には、真摯に耳を傾け、速やかに対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや、毎日の申し送りにおいて、職員が積極的に発言できる機会を設けている。その中で貴重な意見は、全職員で共有するように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や主任から個々の職員の評価や意見を把握し、就業環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規に入社した職員に対し、研修期間を定め、その期間はフロアの主任・副主任を中心に指導にあたっている。また、連携しているデイサービスや他のグループホーム等へ研修に行き、幅広い介護経験を積めるよう、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者が集まる講習会への参加を促したり、講習会の告知をしたりと、広く積極的に同業者とのネットワークづくりを提唱している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何よりご本人との話し合いを大切にしている。それまでの生活歴・身体状況・既往歴等の把握に努めている。その上でショートステイを利用させていただいている。その結果、ご本人に安心して入居を検討していただけるように努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ショートステイの入居の前段階に施設の見学をすすめている。見学時における、質問・要望等に耳を傾け、ショートステイの記録を公開するなどして、開かれた施設づくりに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極められるよう、アセスメント、往診記録、ショートステイ記録、実際の印象等から総合的に判断するように努めている。その上で当施設外のネットワークを利用してサービス支援に対応することもある。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が長年培ってきた生活の知恵や昔の経験等を職員側に発信できる機会を作るようにしている。具体的には、共に家事を行ったり、回想法を用いたりしている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	物理的距離のある家族にご本人を日々身近に感じてもらえるよう、毎月本人の写真付きの月報を発行している。またご本人と共にイベントに参加していただいたり、家族会開催や年末年始の本人帰宅の奨励等を行って		

			る。		
--	--	--	----	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の以前住んでいた家の近所の友人が、時々訪ねてきたりと関係の継続を支援している。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者の席を近くに配置したり、会話が成立しやすいよう工夫している。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了され、療養型病床に入院された方のところへ、職員がお見舞いにいたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人に担当者を充てている。定期的にアセスメントを行ってもらい、より深く、担当した入居者の意向等を把握してもらうよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成以降も、ご家族来訪時に随時、生活歴・生活環境等を伺い、継続的な把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録記入や申し送り、また定期的かつ継続的な訪問診察体制により、日々の状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーの作成した計画と課題に、ご家族、職員やの意見を反映して、入居者の変化に対応した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに記録ノートがあり、職員の観察による気づきや入居者の変化等を記載している。そのノートをもとに申し送りを行っている。また、ケアプランの見直しにも活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、訪問マッサージ等のサービスを提供している。また、ご家族の状況に配慮し、介護保険の更新後見人との面談等も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防士立会いによる避難訓練、災害講習、消火器の使用法の説明を受けている。また近隣の小学校の運動会の見学席に招待してもらったり、施設訪問を受け入れたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療法人のドクターの訪問診療を基本にしているが、かかりつけ医がいる場合は、連携をとりながら、適切に医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療でドクターと同行している看護職員に、申し送りや会議で共有した気づきや変化を受診時に報告、相談している。また緊急の場合には24時間、電話で看護職員に連絡が取れる体制になっており、活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当の看護職に施設での現状を報告している。また、寝たきりや認知症の進行を予防するため、ご家族の協力も得ながら、早期退院を心がけている。また、退院時のサマリーを職員が通読するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに向けた方針をまとめ、ご家族、医師、施設長、ケアマネージャーが話しあいの機会をもち、十分な説明を行い、ご家族の希望に出来るだけ沿うよう、看取りについての指針が定められている。 また看取りの指針を入居の際ご家族に、説明しお渡ししている。		
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応について、職員が実践力を身につけられるよう、研修の機会を設けている。 また、必要な応急処置は行っている。		
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施し、記録に残している。また、地域の広域避難場所に避難する訓練も行っている。フロア内には、避難訓練の場所までの地図を貼用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア内に言葉遣いや気遣い、マナーに関するポスターを職員が目にしやすい場所に貼用している。また実際、人生の諸先輩方と接する気持ちで対応するよう、心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の想いを引き出せるよう、声かけの仕方に工夫をしている。食事・おやつメニューや、外出したい場所等に関するアンケートをとったりしている。また、個別や集団も意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	介護予防や共同生活を視野に入れながらも、一人一人のライフスタイルを尊重し、出来る限りご本人の希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する洋服を自分で選択してもらったり、化粧道具をお貸ししたりしている。また、床屋・美容院等は本人の希望に沿って行っている。地域の行きつけのお店に行ったりもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食事やおやつアンケートをとり、それを献立に反映したり、入居者の誕生日には、本人希望のメニューをだしている。記念日に特別メニューにしたりしている。また食材の買い出しに同行してもらったり、野菜切りや味見等、調理に		

			参加してもらったりしている。		
--	--	--	----------------	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、刻み・お粥・ミキサー食にしたり、食事の量も調整している。また、毎食の摂取量を記録ノートに記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、毎食後に行っている。また個々に応じて歯ブラシを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意を見逃さないよう、観察・声かけを意識している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表を作成し、入居者が、水分不足にならないように促している。水やお茶などなかなか摂取されない方には、お茶をゼリー状にして出すなど工夫している。また便秘の日数を記録し、申し送りにて情報共有している。外出も積極的に行っている。また野菜を多めに摂取してもらえよう、メニューを工夫している。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回行っている。入浴当日のバイタルサインや、ご本人の希望を考慮し、気持ち良く入浴してもらえるよう努めている。また、女性入居者の羞恥心に配慮し、同性の介護職が対応したり工夫している。		
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、フロアでうたた寝している入居者がいたら、居室で少し休むように声かけや誘導したり、一人一人の体調に合わせて休息をとれるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬の目的・副作用・用法・用量は誰でもいつでもファイルで簡単にチェックすることができるようにしている。また、服薬の確認チェックリストを作成し、誤薬が起こらないよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書好きの方を本屋へ連れて行ったり、歌うことが好きな方に歌い出しを担当してもらったり、テレビ好きな方に出来るだけ好きな番組を観てもらえるよう配慮したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出前に全員に質問をし、外出を希望する方を中心に支援を行っている。また、普段行けないような場所の場合は、事前に職員が企画を立案し、安心・無事故で支援できるよう努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の扱い方を理解している方は個人でお財布・お金を所有している。 購入したいものがある場合、職員が同行しご本人が自分で納得した買物ができるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は連絡が取れるよう支援している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には植物を配置している。玄関窓は小さく、不快な音や光が届くことはない。また、毎月入居者が作成した、ちぎり絵による作品が季節感を表すものになっている。更に、カレンダーが皆の目につくところに配置されている。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛け・3人掛けソファや玄関前のベンチ等、独りになれたり、気の合う入居者同士ですごせるよう、工夫している。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険性のない物であるならば、本人が居心地よく過ごせるようにするため、ご本人やご家族が使い慣れた家具や衣類、物品等、自由に持ち込んでいただいている。危険性が発生したものは、随時本人・ご家族に相談して臨機応変に対応している。		

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも歩行でも可能なバリアフリー仕様になっている。玄関から階段・廊下・トイレ・フロア・浴室等に手すりを配置している。また、フロア・居室・トイレ・キッチン・洗面所・浴室等の段差は解消している。		
----	--	--	--	--	--